

公共工事等における新技術活用システム
事後評価結果通知書

令和 6年 3月 29日

大成建設株式会社 殿

国土交通省
中部地方整備局長 佐藤 寿延

新技術活用評価会議における評価の結果を様式V-5のとおり通知します。なお、評価結果についてはNETISに掲載します。

記

1. 技術名称： コンクリート品質管理システム it-Concrete
2. NETIS登録番号： KT-200152-A
3. 評価結果： 様式V-5のとおり
4. 継続調査等の必要性について：継続調査等を必要としない
5. その他：この結果に基づき、当該技術のNETIS登録番号・情報種別記号は「-VE」に変更され、今後の活用効果調査、事後評価は実施されません

異議申し立てについて

上記について異議がある場合は、事後評価結果を通知した日の翌日から起算して10日以内に整備局長あてに異議理由を明示した書面を提出することにより、異議申し立てを行うことができます。

(提出先)

国土交通省中部地方整備局
新技術活用評価会議事務局

活用効果評価結果

公開版

令和5年度

中部地方整備局 / 新技術活用評価会議

NETIS 情報	開発目標	省力化、経済性の向上、品質の向上																																										
	新技術登録番号	KT-200152-VE	区分	システム	有用な技術の位置づけ	活用促進技術																																						
	分類	コンクリート工 - 施工管理 - 施工管理 - 品質管理																																										
	新技術名	コンクリート品質管理システム it-Concrete																																										
	比較する従来技術(従来工法)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業																																										
	新技術の概要及び特徴	本技術は、生コンの練混ぜ、運搬、打設の情報をリアルタイムにクラウドで共有・見える化する技術で、従来は紙伝票や電話で伝達していた。本技術の活用により、工事進行を関係者が同時に確認、帳票も自動出力できるようになり、コンクリート工の品質と生産性の向上が図れる。																																										
活用効果評価	所見	【優れていた所】 生コン車の運行状況をリアルタイムで確認・共有ができるためコンクリートの打ち重ね時間が短縮し構造物の一体性が向上するとともに、自動でデータが蓄積・整理されるため帳票作成の手間を省くことができ工程が短縮する。																																										
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用調査及び活用効果評価を継続する技術としての選定要件にあてはまらないため継続調査は実施しない。 よって、情報種別記号「-VE」とする。																																										
	留意事項	・該当なし																																										
	活用効果調査表における改良点及び要望	・該当なし																																										
活用効果調査結果	対象工事	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>道路下部工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業</td> <td>施工者選定型(契約後提案)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>道路工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業</td> <td>施工者選定型(契約後提案)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トンネル新設工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業</td> <td>施工者選定型(契約後提案)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>橋梁下部工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業</td> <td>施工者選定型(契約後提案)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ケーソン製作工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業</td> <td>施工者選定型(契約後提案)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>橋梁上部工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業</td> <td>施工者選定型(契約後提案)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>橋梁下部工事</td> <td>(従来技術)</td> <td>人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業</td> <td>施工者選定型(契約後提案)</td> </tr> </table>								1	道路下部工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)	2	道路工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)	3	トンネル新設工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)	4	橋梁下部工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)	5	ケーソン製作工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)	6	橋梁上部工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)	7	橋梁下部工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)
	1	道路下部工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)																																							
	2	道路工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)																																							
	3	トンネル新設工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)																																							
	4	橋梁下部工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)																																							
	5	ケーソン製作工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)																																							
	6	橋梁上部工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)																																							
	7	橋梁下部工事	(従来技術)	人手での時間管理・記録、電話による情報交換、帳票作成作業	施工者選定型(契約後提案)																																							
	参考																																											
	項目	ケース番号および年度	1	2	3	4	5	6	7	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)																																	
施工時評価	経済性	R3	C	A	B	B	B	B	C	B	C																																	
	工程	R3	-	A	B	B	B	B	-	B	C																																	
	品質・出来形	R4	A	A	B	A	B	B	A	B	C																																	
	安全性	R4	-	C	-	-	B	C	-	-	C																																	
	施工性	R4	A	C	B	A	C	B	B	B	C																																	
	環境	R4	-	C	B	-	C	C	B	C	C																																	
	その他	R4																																										
総合評価点		B	B	B	B	B	B	B	B	B																																		
今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか		今後も是非活用したい		活用を検討したい		場合によっては活用することもある		技術の改良を強く望む		各項目における判定																																		
		71%		29%		0%		0%		A	従来技術より極めて優れる																																	
										B	従来技術より優れる																																	
										C	従来技術と同等																																	
										D	従来技術より劣る																																	
追跡調査の必要性		不要																																										
追跡調査		-																																										